

# 米国 ～FRBは利上げに向けて前進～



経済調査部 主任エコノミスト 桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

## リスク判断が復活

FRBは、7月のFOMCで今年に入ってから見送っていた米国景気に関するリスク判断を復活させ、「短期的なリスクは低下した」とリスクが減退したとの判断を示した。リスク判断を回避し、様子見を続けてきたFRBが再びリスク評価を始めたことは利上げに向けての地均しとみられる。FRBは、データ次第で金融政策を決定する方針を維持しており、現時点で利上げ時期を示唆していないが、次回9月20、21日のFOMCまでに公表される多くの重要指標の注目度が高まった。

こうした中で、FOMC直後に公表された4-6月期の実質GDPは前期比年率+1.2%と非常に弱い数字になり、市場で年内利上げ期待が一旦後退した。しかし、実質民間需要は個人消費の前期比年率+4%台への加速もあり、同+2.7%に加速している。また、国内最終需要の加速によって在庫投資が減少に転じ成長率を大幅に下振れさせており、実質GDP成長率が示すよりも、米経済は堅調なペースで拡大したと判断できる。

その後の指標も強い結果が続いていて、7月に入っても景気情勢を示す企業の景気指数は、高い水準を維持しており、景気の堅調さを示している。また、8月5日に公表

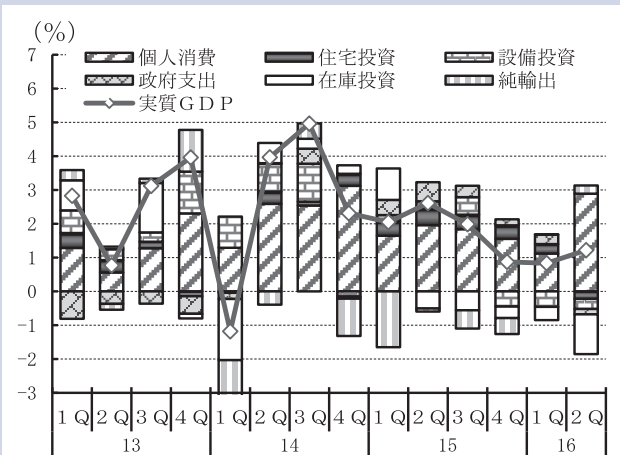
された7月の非農業部門雇用者数は、前月差+255千人(前月同+292千人)と、6月にストの終了や暖冬による冬場の押し上げの反動が弱まったことで大幅に増加した直後にもかかわらず、堅調な国内需要を背景に高い伸びを維持した。7月の失業率(U3、家計調査ベース)は、職探しを諦めた人が労働市場に戻ってくるなかで4.9%(前月4.9%)と、完全雇用といわれている水準を維持した。

米国では景気拡大が長期化するなかで、ドル高による金融環境の引き締め、原油価格下落、世界経済の減速等の影響を受けながら、堅調な国内需要を背景に、雇用情勢の改善が続いている。

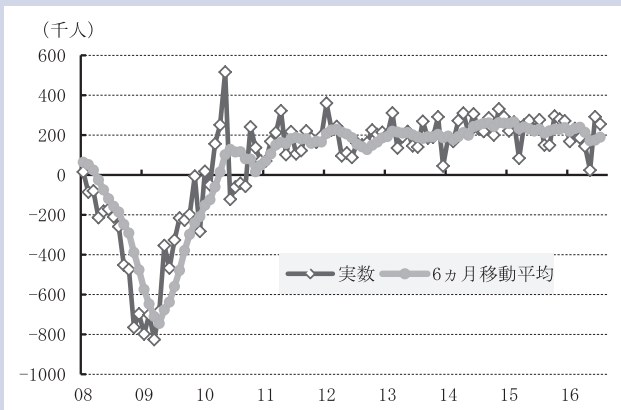
## 次回利上げは9月にも

堅調な雇用統計を受け、FF先物が示す9月の利上げの確率は26%(統計公表前日の8月4日:18%)、12月が47%(同:37%)と年内利上げの可能性が一段と高まっている。今後、FRBは雇用者数の堅調な増加ペースの持続や7-9月期の実質GDP成長率の加速見通しの高まりを受け、米国景気に対して楽観的な見方を強めるとみられる。そのような中で、FRBは英国のEU離脱や中国経済の減速による世界経済や金融市場への影響を見極めつつ、慎重に金融政策を決定する。影響が限定的と判断すれば、FRBは9月に利上げを実施する可能性が高い。(8月8日執筆)

資料1 実質GDPの項目別寄与度(前期比年率)



資料2 米国非農業部門雇用者数(前月差)



内外経済ウォッチ